

一年を振り返つてみると、ロシア侵攻から始まつたウクライナ戦争が長期化していることや、驚くようなトランプ関税の発表、日本に女性初の総理大臣が誕生したこと、北海道や東北にクマによる被害が多発していること等が、大き

実感する日々になり、残念です。

早いもので、本年（二〇一五年）も、あと残り一ヶ月余となりました。

今年は猛暑の日々が長く続きました。十月に入つてやつと朝夕涼快適な秋を満喫する暇もなく、十一月二十三日には富士山で「初冠雪」、十一月七日には盛岡で「本州初の初雪」のニュースが伝えられ、秋はどこへやら、急に冬の接近を感じます。

刻な出来事は、やはり、「牧之原市に国内最大級の竜巻到来」でした。

（また、私にとっては、障害を持つご利用者三名のご逝去も、忘れられない出来事でした。）

別紙（募金のお願い）にも書き

況については、今回の機関紙に掲載されていますので、ご覧下さい。

牧之原市内の竜巻被災や支援状況について、今回の機関紙に掲載されていますので、ご覧下さい。

部の器具が故障しただけでした。そしてそれらも企業財産包括保険（火災保険）により、新しいものに替えることができましたので、皆様からの見舞金は、主として、被災した職員支援のため活用させていただきました。

攻撃的になつたりすることがあり、Aさんだけでなく、他のご利用者たちも恐れています。

ある日、テレビで国会討論の様子が報じられ、「高市早苗総理大臣」と呼ばれる場面がしばしばあつたそうですが、「さなえ」の名前が呼ばれるたびに、Aさんは、「ダメだ、さなえ」「さなえ、ひっこめ」などとブツブツ横やりを入れたことがあります。

争にしろ、人間にとって、「住まいの喪失」や、「暮らしの突然の変化」は、どんなにか辛く、重苦しい日々をもたらすことでしょう。

そのような辛い体験を余儀なくされた方たちの上に、最善の助けがありますように、安心して暮らせる日が一日も早く来ますよう、幸い、当法人には建物などの損壊・損傷はなく、エアコンなど一

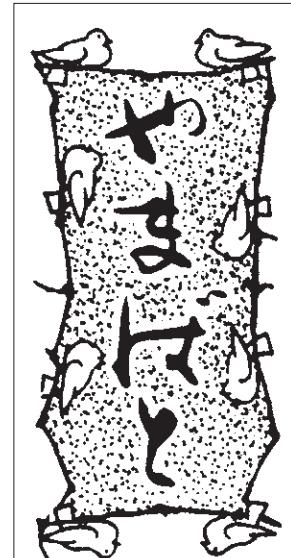
## （二）

### 女性初の総理大臣

「高市早苗氏」の登場

に関連して、最近施設では、こんなことがあつたと聞きました。

男性ご利用者の Aさ



発行  
社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園  
〒421-0412 静岡県牧之原市  
坂部 2151 番地 2  
TEL:0548-29-0221 FAX:0548-29-0157  
E-mail:honbu@yamabatogakuen.jp  
http://www.yamabatogakuen.jp/

機関誌代は無料です。

んは、日頃から、仲間の「さなえさん」を恐

れていて、あまり近づかないようにしています。実は当施設にいる「さなえさん」は、知的能力も高く、機嫌がよいときは細やかな心遣いもできる方ですが、気持ちが変わ

り易く、急に怖い表情になつたり、

熱心に取り組む姿勢、猛烈な働き

通してしばしば彼女の言動を見る

につけ、自分の使命を果たそうと

## まばとや

手、素早い決断と対応、明瞭な国會答弁などが印象に残り、「努力の人」「自分の言葉で発言する人」「総理大臣になるべくしてなつた人」という好印象を抱かされています。

今後どのような政策を打ち出すか知りませんし、私の願いとは違う施策が出てくるかもしれません。が、とにかく、課題山積みの国内外の情勢の中で、世界と日本の「平和」と「繁栄」のため、フル活躍していただきたいと願っています。

(二)

「高齢化社会」や「高齢社会」という言葉に明確な定義はないそうですが、総人口に占める六十五歳以上の高齢者の割合が七%を超えると「高齢化社会」、十四%を超えると「高齢社会」と言われます。

日本が「高齢化社会」になつたのは「一九七〇年」で、わたしたちが初めて重度知的障害児施設「やまばと学園」を開設した年でした。当時は、「高齢社会の到来」について大きく話題になることはほとんどありませんでした。

一九八一年、当法人は特別養護老人ホーム「聖ルカホーム」を開設、いずれ日本は少子超高齢社会

になると考えたためですが、その頃にはすでに、意識の高い人々の

間で、「高齢社会の到来」が問題にされ始めています。しかし、一般市民の間では、「高齢社会」への

関心もなく、そのため、「聖ルカホーム」の用地獲得に当つても、「そんな姨捨山のような施設はいらぬ」とか、「そんな施設ができたら自分の土地の価格が下がつて迷惑だ」とか、特養ホーム建設反対の意見が多かつたのでした。

高齢者人口が十四%を超えたのは一九九五年で、この年から日本は「高齢社会」に突入。その背景には、「医療の進歩」や、「合計特殊出生率の減少」があると説明され、出生率低下を防ぐ動きも始まりましたが、効果はなく、少子高齢化は加速しました。

（三）

「高齢化社会」や「高齢社会」

という言葉に明確な定義はないそうですが、総人口に占める六十五歳以上の高齢者の割合が七%を超えると「高齢化社会」、十四%を超えると「高齢社会」と言われます。

日本が「高齢化社会」になつたのは「一九七〇年」で、わたしたちが初めて重度知的障害児施設「やまばと学園」を開設した年でした。当時は、「高齢社会の到来」について大きく話題になることはほとんどありませんでした。

一九八一年、当法人は特別養護老人ホーム「聖ルカホーム」を開設、いずれ日本は少子超高齢社会

現在、国内の六十五歳以上の高齢者は3619万人（男性1568万人、女性2051万人）で、総人口に占める割合は二十九%。3,5人に一人は高齢者という状況です。

九月二十一日付の福祉新聞は、「九月一日時点で百歳以上の高齢者は全国で9万9763人（前年比464人増）。うち女性は、九割弱を占める」と報道しました。

「働く高齢者」も増えている、総務省は、「二〇二四年に六十五歳以上で働いた人は九三〇万人で、過去最多だった」と発表しました。

百歳以上の人も、働く高齢者も

には、「医療の進歩」や、「合計特殊出生率の減少」があると説明され、出生率低下を防ぐ動きも始まりましたが、効果はなく、少子高齢化は加速しました。

皆様が、よいクリスマスと新年年々増加し、過去の記録を更新。恐らく今後も日本では、多様な高齢者が増え続けることでしょう。

「長寿を喜び、祝う社会であつてほしい」と願っていますが、一

（理事長）長沢道子

耳にすると、先が思いやられ、悲観的な思いにもされがちです。

しかし、イエス様と共に歩んでされた者は、暗闇の中でも光を見る事ができ、自分にできることを喜んで果たしていくるでしょう。

周囲の人々から喜びを与えられなことも、神御自身から慰めや喜びを与えられ、安心して歩んで行くのではないでしょうか。

やや主観的で独断的な表現になりましたが、誰かのお役に立つことができればと思って、私の信仰経験の一端を書かせていただきました。



# 大阪の地で学んだ歴史と未来

## ～坂部小学校六年生修学旅行～

2025年12月1日(隔月1日発行)

と

ば

や

第568号(3)

竹下知行

症の心配が減り、安心して会場へ向かいました。

会場には午前九時に到着。修学旅

行の団体として特別に優遇され、並

令和七年十月二日から三日、牧之原市立坂部小学校の六年生は大阪方面への修学旅行を実施しました。例年なら東京方面ですが、今年は大阪・関西万博があり、特別に大阪方面への修学旅行を計画したのでした。

発端は二年前の文部科学省からの大阪・関西万博への修学旅行に関する通知でした。小学生や教員の入場優遇措置があると知り、行きたいと考えたのですが、課題は山積みでした。過去に大阪方面への実施がないことや万博開催に関する不安要素が多くあることなどです。

そのような状況でも、私は、「子供たちをぜひ万博に連れて行つてあげたい」という強い思いを抱いていました。私自身、学生時代の「つくば万博」での感動が今も心に刻まれており、その体験を子供たちにも味わってほしいと思つたからです。

二年前の秋、当時四年生の保護者の全員が集まる会合に出向き、本件について説明させていただきました。

賛否は分かれるかもしれない予想しましたが、保護者の皆様からは「反対する理由が見当たらぬ」「ぜひ、

子供たちを万博に連れて行つてください」など、応援の声しかなく、皆様から賛成いただき、とても心強く思つたのでした。この会合以降、保護者を含めた業者選定や行程の作成、パビリオンの予約抽選の申込などを行い、準備を進めました。

準備期間中、万博関連の報道により不安が広がる場面もありましたが、正しい情報をもとに、皆で知恵を出し合い準備を重ね、当日を迎えることができました。

### 【一日目 大阪の歴史にふれる】

旅行初日の十月二日、朝、バスで学校を出発した一行は、お昼過ぎに大阪城を訪れました。社会科教育の専門家でもある担任の久保田教諭が、説してくれ、子供たちは積極的に学びを深めました。その後、夕方にはU.S.J.を訪れ、グランプリ毎に分かれ研修活動、アトラクションや食事を楽しみながら、友情と連帯感を育む大切な時間を過ごしました。

【二日目 いざ万博へ】

翌三日は、修学旅行最大の目的地である大阪・関西万博へ。天気は曇り、最高気温も二十五度程度、熱中

が、事前準備が功を奏し、無事に全員で退場することができました。

【修学旅行を終えて】

午後三時、大阪をバスで出発し、夜八時には子供たちは坂部小学校へ帰着しました。出迎えてくださった保護者の方々に、子供たちは大阪城、U.S.J.、万博など、修学旅行での経験を嬉々として話しており、多くの見学。心に残る体験をたくさん積むことができました。

例えば、私が同行したグルーピでは、万博記念スポットでの撮影後、中国パビリオンに並ばず入場でき、月の裏側の砂などを見学、未来技術への興味を搔き立てました。また、空いていた大屋根リングを移動手段に使い、コモンズパビリオンではスタンプラリーを兼ねて二十か国以上を訪問することができます。昼食は、早い時間に購入していたため、混雑を避けて、集合時間を待ちながら食事ができました。

最後に、とても人気のある「いのちの未来」パビリオンを訪問し、未來の技術や生命の可能性について学びました。子供たちは、本物そつくりの野口英世さんやマツコ・デラッ

クスさんなどのアンドロイドの動きに夢中になり、未来について仲間と真剣に考える姿が見られました。その後、入場者数がかなり増えました



## 名士に学ぶ

「一ヶセンター希望の家 原 絵梨

今年度、施設管理者の育成研修の一環として、地元で活躍されている名士からお話を伺う「名士に学ぶ」シリーズが始まりました。第一回の講師は、牧之原市の元市長・西原茂樹氏。旧相良町と旧榛原町の合併という激動の時期に市政を担い、牧之原市初代市長として尽力された方です。講演は西原氏との距離が近く、いつ対話を求められるかわからぬ緊張感のあるスタイルでしたが、ユーモアを交えた語り口に引き込まれ、笑いと学びにあふれた時間となりました。

今回のお話の中で特に印象に残つたのは「市民の心を動かし、協力体制を築く秘訣」です。主役は市民・職員・現場で働く人々であるといふ意識を持ち、支援してもらひえる力を高めることが管理者としての重要な資質であるといつ言葉に深く感謝を受けました。マネジメントとは

人にやる気を起させ、その力を最大限に發揮させることであるとも、西原氏は話されていました。その為には気づき・共感・行動のプロセスを大切にして、「自らやってみよう」という気持ちを引き出す」とがリーダーに求められます。施設運営も同様に、「利用者や職員と共に作り上げていくものだと改めて実感しました。地域社会を動かす政治の手法は施設運営に通じる部分が多く、課題に直面した際のリーダーシップのあり方について、大いに学ぶことができました。

私たちが自ら体験・経験できるところには限りがありますが、西原氏のように幅広い知識と深い洞察力を持つ方の視点や思考に触れることで、日々の業務に生かせる貴重な教訓を得ることができます。「名士に学ぶ」ことは自身の成長へつなげるための有意義な機会であると思いました。

今回の研修で得た学びを、今後の施設運営や職場づくりに生かしていくたいです。

(施設長) もくじ 大須賀 貴生

## 九月五日竜巻被害のあと

九月八日、もうすぐ勤務時間が終

わる頃、職場のパソコンにカサブランカ澤渡施設長からの法人全体メールを見つけました。

「今回の突風で吉田町に住むカサブランカの利用者さんの家が被災し、家の壁などが飛ばされ、隣の敷地に散乱しました。直ぐに片付けて欲しいと言われているらしいのですが、人手が無く片付けるのに困っているとのこと。片付けにご協力いただけます方は、本日十六時十五分、吉田町ショッピングガーデン集合です。」協力下さる」とありました。

いつもお世話をなっている澤渡さんからのお願いだったので、職場から近かったことから、もうみる事にしました。集合場所に着きましたがもちろん誰もおらず、電話をしてみても繋がりませんでした。諦めて帰らへと思つたのですが、やまばとの職員が十人くらいで片付けを

メールの通り、家の壁なのが屋根なのか、大きな木材などが隣の敷地に散乱していました。隣の敷地に落ちた壁らしきものからバールで柱を剥がして運ぶことに協力をしました。その大きな破片はとても重く、男性四、五人いても運ぶことは出来ず、台風の威力の凄さを感じました。壁には柱を付けていた釘が刺さっていて、その上を歩くと外靴から貫通して釘が足の方に入つてきました。怪我はしませんでしたが、とても危険だと感じました。自分は遅れて参加したので、三〇分位しかお手伝いできませんでした。散乱した瓦礫や木材がある程度片付くと、お家の方はとても感謝してくれました。少しでも力に慣れたのなら行って良かったと思いました。

今回のお手伝いの内容は外に飛んで行つてしまつたものを片付けただけです。雨漏りのある部屋の片づけをみて、繋がりませんでした。やまだまだ大変な生活をされているひとと思います。一日も早く元の生活に戻れるのを願っています。

(主任生活支援員)

## 本物のスイカはどーれだ

グレイス 奈須和子

当施設では、毎月各ユニットでクリエーションの時を設けています。今回は、テーブルに並べられたスイカや様々なビーチボールの中から本物のスイカを当てて頂くというシンプルなゲームです。

今から何が始まるのかな?と不思議そうな表情だった。利用者も職員から「本物を良~くみてねー」と声をかけられ「スイカ」と想えて、バットを振り下ろしました。

でも、よく見ると本物ではなく、ビーチボールのスイカです。残念!気持ちを取り直してもう一度。皆の掛け声もあり、本物を当てる事ができた時は笑顔が見られました。

中には、ただ目の前にあるボールを叩いているだけの方もいましたが、皆様真剣な表情をされていました。

単なる遊びではなく、体を動かす・考える・楽しむことができる、リハビリにつながり、職員や利用者との交流を通して心の元気が生まれる時間だと思います。

楽しくゲームをした後は、本物のスイカ



を皆でおいしそうにいただきました。

(介護員)

## 台風15号の巻に伴う緊急対応について

(包括支援センター オリーブ) 松田正幸

### 「メロン割り」で笑顔満載

かたぐり 渡邊千恵子

七月十八日、恒例の「スイカ割り」に代わり「メロン割り」を行いました。今年はスイカの価格が高騰していたため困っていたら、御前崎にあられるメロン農家の加藤農園さんとの出会いがあり、なんと当日かたぐりの花に完熟した立派なメロンが四個も届いたのです。

メロンはスイカより小ぶりなため、新聞紙で紙風船を作りメロンの上に乗せて叩くスタイルにしました。目隠しはサングラスで対応、玩具のバットやピコハンマーを使って、「利用者が安全に楽しめるように工夫しました。紙風船がはじけるたびに笑顔で笑うK様。早く食べたくて何度も叩くM様。そしてみんなからは歓声があがり、夏の楽しい思い出となり、協力してくださった加藤農園様に感謝しています。(施設長)



一〇一五年九月五日に牧之原市を襲った台風15号は、今なお深い傷跡を残しました。「国内最大級」と表現された巻の後の街の風景は悲惨なものでした。

直後から担当者は、独り住まいの利用者に電話や訪問をして事態の確認をしました。「窓が割れて、家中が水浸しになっている」「家中で転んでケガをしている」「急遽親戚の家に身を寄せている」等々の情報が集められてきて事態の深刻さが次第に明らかになつてきました。家が壊れない」と強く主張されるので、そのままにしてしまった。(3日後に無事病院へ入院しました)。

巻によつて家が壊された上、停電、断水が重なつた独り暮らしのご利用者が複数いらっしゃいます。大きな被害を受けた地域が丁度オリーブの管轄地域でもあつたので、職員一丸となつて牧之原市の行政や社会福祉協議会の方々と連携して活動しう要請があり、私ともう一人の職員が出向きました。その方の家は、道路に面する玄関、雨戸は壊れ、窓ガラスは全て割れて部屋中にガラスや衣類、木片が散乱し家の奥まで見通せる状態でした。その奥の部屋の濡

れた布団の上で「困った困った、ごめんなさいね」とつぶやいているご利用者がいました。膝が悪く歩行が困難な方でした。同居している妹さんは精神の疾病があり、深刻な事態にただただ立ちすくんでいました。私たちは、お姉さんが座っている布団を担架の代わりにしてそのまま車に運び入れて避難所に連れて行きました。妹さんはガラスの破片で足の裏をケガしていましたが、「家から離れない」と強く主張されるので、そのままにしてしまった。

利用者が安全に楽しめるように工夫しました。紙風船がはじけるたびに笑顔で笑うK様。早く食べたくて何度も叩くM様。そしてみんなからは歓声があがり、夏の楽しい思い出となり、協力してくださった加藤農園様に感謝しています。(施設長)

今後もご利用者の悲痛な声にしっかりと耳を傾け、そのニーズに少しでも応えていきたいと思っています。

(所長)

歩みのあと

(9月1日～10月31日)

▼9／1～5第次補正等ヒアリン  
グ。9／5台風15号。事業所に大  
きな被害はなく、牧之原市に大  
企業所では最長二日間の停電対応  
をしました。9／11みどり経営山  
本潤平様(社会保険労務士)によ  
る労務研修。10／7第二回新入  
職員オリエンテーション。10／10新  
入職員研修。10／15地域の名刺  
に学ぶ会(第一回) 静岡福祉大  
学学長増田樹郎様にお話を伺う。  
10／24第二回吉澤様解説委員会。  
第三者委員も参加され、上半期  
苦情について検討。

〔法人〕9／13第四回理事会。10／1「ト専入」ためのDX学校説明会。10／2～3オリーブの実を収穫。今年は猛暑と台風で実の付きが少なかった。10／2(福)草笛の会創立50周年記念式典。河本部長出席。10／3～4近江町いらば会との交流研修。10／9障害者雇用納付金等に関する調査。10／14牧之原市社協会へードバンク食糧の引き渡し。10／27長澤理事長、牧之原市社協議員会出席。

〔垂穂寮〕9／20秋祭り。保護者多数参加。食事・奉仕を楽しむ。9／29秋の健康診断。10／11島田市インクルースポーツパークご利用者2名参加。10／24島田市歯科衛生会によるブラッシング指導。10／29中部衛生検査センター職員による感染症研修。

〔野ばら〕9／29「利用者健診」。島田市インクルースポーツパークへ全員で参加。午後は音楽を楽しむ。

〔みぎわ〕9／6花火鑑賞会、打上花火等楽しむ。10／11島田市インクルースポーツパークなどを楽しむ。

〔やまばと個別面談〕。参加者は19家族27名。終了後はご利用者と一緒に昼食会。9／26秋の健

る。10月1日、17歳の少女を届けに行く。10月2日、3才オーリーの実の収穫。10月3日、31仮装でランウェイを走る。「マーガレット」9月5日風15号接近により休業。9月15日ドーナツ作り。トッピングを楽しむ。10月2日利用者健康診断。10月3日うますぎ収穫。10月10日、31歳染谷B.C.P研修会。10月11日、31歳染谷B.C.P研修会。10月12日、31歳染谷B.C.P研修会。10月13日、31歳染谷B.C.P研修会。10月14日、31歳染谷B.C.P研修会。10月15日、31歳染谷B.C.P研修会。10月16日、31歳染谷B.C.P研修会。10月17日、31歳染谷B.C.P研修会。10月18日、31歳染谷B.C.P研修会。10月19日、31歳染谷B.C.P研修会。10月20日、31歳染谷B.C.P研修会。10月21日、31歳染谷B.C.P研修会。10月22日、31歳染谷B.C.P研修会。10月23日、31歳染谷B.C.P研修会。10月24日、31歳染谷B.C.P研修会。10月25日、31歳染谷B.C.P研修会。10月26日、31歳染谷B.C.P研修会。10月27日、31歳染谷B.C.P研修会。10月28日、31歳染谷B.C.P研修会。10月29日、31歳染谷B.C.P研修会。10月30日、31歳染谷B.C.P研修会。10月31日、31歳染谷B.C.P研修会。

康診断。9／26 清水港クルーズ。ご利用者4名、ご家族1名参加。10／18秋祭り。ご家族、地域の皆様等、総勢164名の来場。民生委員や静岡県学生等25名が協力して模擬店によさく述べ頭を楽しむ。10／22 第三者評価利用者調査。静岡県社会福祉士会の実施。

生活支援センター。9／5台風15号。地域の被災されたご利用者の行政と連携して対応。

わかば。10／18 希望春秋祭りに招待され、賑やかな祭りの雰囲気を満喫。もくれん。9／20 お好み焼きくり。

花もも。9／12 職員研修。救命急救の学び。10／31 ロウイン。真菜マーラゲーリー、聖ルカと交流。

かたくりの花。9／19 かたくり。リンク。パン食い競争に玉を入れ張り切

《聖ルカホーム》9／12ご利用者100歳のお祝いで市職員が来訪。9／5台風15号の影響で停電、断水有。9／19芸能祭盆踊り、花火を楽しめ、水羊羹販売す。9／25白寿のお祝いお寿司、プリアモード。10／10手打ちそばの実演。打立てで新そばを販売す。10／17防災訓練。停電、断水想定の初動確認など。10／27ボーリング大会。その後焼き芋を販売す。10／30、31ロウインの仮装とお菓子の手渡し。相寿園9／9、10／14大場さん、笑ヨガ。10／10輪投げ大会。10／15、21運動会。玉入れパレード。10／21食い競争など。10／24囲碁クラブ。10／29真菜9／18混ぜご飯と竹輪のかば焼き作り。9／12／15敬老会。最高齢は百歳。あざみ祭りの花踊職員出し物。笑いヨガ、紅白セリ。9／22手作り。9／22／24おはぎ作り。10／20利用者が手際よく手作り。2オリーブ摘み。10／6／11真菜リンピック。輪投げ等3種目で個人戦、団体戦を競う。10／17ピラフ等手作り。10／20、21真菜の畑のさく

《あさがお》9／9体操教室。9  
22じやがり「や、ホットケーキミック」  
スで非常食・防災食を作り試食。  
9／24ご利用者健康診断。10  
14笑いの方。10／17ロウイン。仮面  
マスク・カツブケイ装飾とミイラ  
巻きゲーム。  
WOCやまばと自主製品販売Q  
17相良庁舎で。9／23泰善寺  
で。10／8ハイマルシェ原店へ出  
品。10／18職員2名牧之原市災  
害ボランティア参加。  
《さとう》9／5台風15号接近にて  
り休業。9／29余暇を有意義に過  
ごす練習。10／2ご利用者健康  
診断。10／31感染症BCP研修。  
《レタスクラブ》9／5台風15号接近にて  
り休業。9／10ランチつくりくら  
（チキン・ジャーロース）。10／31感

対応(本文に報告)。10／15樺太  
総合病院と、意思決定支援  
多職種情報交換会・居宅ケアマ  
患者支援センター相談員・病棟看  
護師・訪問看護ステーション看護  
師等参加。

ま芋できんつば作り。10／31花  
ものパーティに参加。10／31花  
《すずらん》9／20敬老会。一般の古  
も招待。日頃の感謝と健康を祈る意  
り、感謝状を渡し余興を楽しむ。  
9／25榛原中学生職業体験。10  
らし寿司作り等で交流。10／9  
し柿づくり。経験者のおかげで便  
事に吊るし、10日ほどで完成。  
10榛原蕎麦打ち愛好会様の工  
打ちそばを食べ、自作の天ぷらを  
合わせ大満足。

寄付金状況報告		(単位:円)	
	寄付金	指定寄付金	合計
4月～ 9月	40,794,931	0	40,794,931
10月	1,149,727	0	1,149,727
計	41,944,658	0	41,944,658

静岡福祉大学	常葉大学	垂穂寮 聖元カ	2名	10日間
樺原中学校職業体験3名	樺原中学校職業体験3名	樺原中学校職業体験3名	2名 8 9 18 24	18 18 9 9 26 12 19
樺原中学校3名	樺原中学校3名	樺原中学校3名	1名	1日間
樺原高校1名	樺原高校1名	樺原高校1名	2名	2日間
（貞菜）	（貞菜）	（貞菜）	（貞菜）	
樺原高校1名	（やまばと希望寮）	（やまばと希望寮）	2日間	
聖徳大学2名	聖徳大学2名	聖徳大学2名	12日間	
清流館高等学校4名	清流館高等学校4名	清流館高等学校4名	2日間	
あとがき	あとがき	あとがき	あとがき	
☆表紙の写真はケアセンターマーガレットの「利用者。初のプランターでのイモ作り。初めてイモを掘り当たしました。	☆表紙の写真はケアセンターマーガレットの「利用者。初のプランターでのイモ作り。初めてイモを掘り当たしました。	☆表紙の写真はケアセンターマーガレットの「利用者。初のプランターでのイモ作り。初めてイモを掘り当たしました。	☆表紙の写真はケアセンターマーガレットの「利用者。初のプランターでのイモ作り。初めてイモを掘り当たしました。	
☆竹下知行先生は、坂部小学校の校長先生。坂部小学校は、140年もの歴史をもつ地元の小学校で、早くから「仲良し学級」もあります。修学旅行(仲良し学級の生徒も参加)で、大阪万博に行つたと聞き、執筆を依頼したところ、翌日には原稿が届き、その仕事の早さに驚かされました。	☆竹下知行先生は、坂部小学校の校長先生。坂部小学校は、140年もの歴史をもつ地元の小学校で、早くから「仲良し学級」もあります。修学旅行(仲良し学級の生徒も参加)で、大阪万博に行つたと聞き、執筆を依頼したところ、翌日には原稿が届き、その仕事の早さに驚かされました。	☆竹下知行先生は、坂部小学校の校長先生。坂部小学校は、140年もの歴史をもつ地元の小学校で、早くから「仲良し学級」もあります。修学旅行(仲良し学級の生徒も参加)で、大阪万博に行つたと聞き、執筆を依頼したところ、翌日には原稿が届き、その仕事の早さに驚かされました。	☆竹下知行先生は、坂部小学校の校長先生。坂部小学校は、140年もの歴史をもつ地元の小学校で、早くから「仲良し学級」もあります。修学旅行(仲良し学級の生徒も参加)で、大阪万博に行つたと聞き、執筆を依頼したところ、翌日には原稿が届き、その仕事の早さに驚かされました。	
☆気持ちのよい秋は短く、あつという間に冬を迎えました。寒暖差も著しい昨今です。くれぐれも自愛ください。	☆気持ちのよい秋は短く、あつという間に冬を迎えました。寒暖差も著しい昨今です。くれぐれも自愛ください。	☆気持ちのよい秋は短く、あつという間に冬を迎えました。寒暖差も著しい昨今です。くれぐれも自愛ください。	☆気持ちのよい秋は短く、あつという間に冬を迎えました。寒暖差も著しい昨今です。くれぐれも自愛ください。	